
幸せは夢うつつの匂い

翠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せは夢つつつの匂い

【Nコード】

N2839B

【作者名】

翠

【あらすじ】

彼と繋いだ手は今も熱い。手から香る彼の匂い。

（前書き）

ふと、書きたくなつて
書いてみました。

繋いでいた手から香る
彼の匂い。
香水とかじゃなくて。
彼の匂い。
たぶん洗剤の匂い。

いまでも繋いでた手が熱くて。
鼻を近づけるとふわっとくすぐる。
彼の匂い。
思い返しては一人微笑んで。
風を受けてこわばる頬を赤く染める。
目を閉じれば今でも彼の温もりが私を包む。

「何考えてんだよ。」
って。

私のはにかんで笑ったび顔を覗き込んで。
「別に。何でもないよっ。」
って答えると

「噓。絶対なんか思ってるだろ。」
って、恋人つなぎしてた手に力を入れてくる。
つないでた手が締め付けられて少し痛い。

その痛みが想い続けていた彼の彼女になれたことを証明してる様で、少し嬉しかったりする。

彼が手を緩めて優しく私の手を握りなおす。

彼と目があつて。

彼の唇は少し湿つてて。

かさついた私の唇にそつと当たる。

そつと触れるだけの彼のキスが好き。

「好きだよ」

つて言われてるみたいで。

私が恥ずかしがって下を向くと

優しく抱きしめてくれる。

彼の優しさに甘えて・・・。

私は大切なことを忘れていた。

容姿としてはあまり目立たない彼。

だけど・・・。

優しく、温和な性格は皆に好かれる。

彼とサヨナラを交わすたび・・・。

悲しくなる。

バイバイなんて聞きたくない・・・。

その言葉が合図のように彼が何処かに行つてしまいそんな気がする・・・。

もつと一緒にいてほしい・・・。

握った手を放したくない・・・。

彼の・・・

匂いに包まれていたい・・・。

でも、彼はそんな私の不安を風のごとくふわっと浚っていく。

帰り際、必ずこう言ってくれる。

「愛してる。」

この一言は私の中に深く染み込んで、しっくりと馴染む。

家までの帰り道、自転車を漕ぐ足に力が入る。
坂道を意地でも押さずに乗ったまま超える。
過ぎ行く家々を視界の端に捕らえながら、私は彼を想う。

坂を越えた私を待っていたのは
眩しいくらいに紅色に染まった街並みだった。
自転車から降りて、しばらく沈む太陽と紅く染まる街を見つめた。
息が切れて視界が微かに上下する。
片手を太陽にかざしてみた。
その手も真っ赤で・・・。

そのうち金色の線を一筋残して、太陽は沈んだ。

風が吹いた。
彼の匂いがした。

私は今日もベッドに入り幸せをかみ締める。
窓からのぞく月は私を見ていた。

夢うつつなこの時間、私は彼の匂いに包まれて・・・
深い深い眠りに落ちていく。

（後書き）

どうでしたか？

多少はよりましたがこんな感じです。

ご感想など、頂ければ嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2839b/>

幸せは夢うつつの匂い

2010年12月19日00時29分発行